

【実践報告】

教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 佐伯 育郎

1 はじめに

小学校教員志望者が、実際の教育現場に出て行う4週間（20日間）の実習である。これまでの教育実習Ⅶや教育実習Ⅰにおける学びを生かして、自分で実際の授業を担当する。この実習を通して、子どもの実態を理解し、現場の教員と小学校の実態、地域との関係等々を体験的に理解するとともに、教師としての使命を自覚し、教育に対する意欲を高め、教師として必要な資質能力の向上に向けて自己の学修課題を明らかにすることを目的とする。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学習 (学内)	7月～8月	<ul style="list-style-type: none">・教育実習事前説明会に参加し、教育実習Ⅱ・Ⅲの意義、目的、心構え、手続き等を再確認する。教育実習記録を受け取り、記述・提出方法について理解する。・実習校への事前訪問により、指導担当教諭などから、配属学年、配属学級の児童の実態や、教育実習の全体計画、実習の事前課題などを確認する。実習生から教育実習出勤簿や教育実習評価票などについて説明し、実習校へ提出する。
本実習 20日間 (学外)	9月～12月	<ul style="list-style-type: none">・実習の内容は、実習校により計画される。実習中は教育実習日誌等の記録を取り、小学校教諭の職務等についての理解を深める。・主な学修課題として、①教育の理論と実践の一体化②基本的教育技術の習得③発達期にある子どもの理解④教育的人間関係における相互作用についての学習⑤教育者としての自覚の高揚、が挙げられる。観察・参加はもとより、実習授業に関しても万全の準備をした上で意欲的・主体的に取り組む。
事後学習 (学内)	10月～1月 平成27年度は 12月3・11・15 日に実施。今 年度のタイト ルは“山あり谷 あり～笑顔33 ～”“ゆとりだ からなんだ”	<ul style="list-style-type: none">・各自の教育実習を振り返り、実習校から返却された教育実習記録を読み返し、まとめ直す。再度、学生サポート課に提出する。・教育実習記録をもとに実習校での学びを振り返り、教育実習報告会用のレジュメを作成する。提出されたレジュメを印刷・製本し、教育実習報告書を作成する。・教育実習実行委員会を中心に、教育実習報告会を実施する。・実習報告会では、児童理解の実態とその手だて、真似したい指導法とその意義、自身の課題と課題に対する考え方など、学生が主体的に設定したテーマに基づき、小グループに分かれて討論・発表を行う。他学年の学生や教員も参加し、議論に加わる。・報告会終了後、成果と課題をまとめた振り返り冊子を作成・発行する。

3 活動の概要

(1) 実習授業・研究授業の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

教科領域	対象	単元・題材・資料名
国語	第4学年	ごんぎつね
算数	第5学年	分数のたし算とひき算
理科	第3学年	光とかがみ
生活	第1学年	きれいにさいたね
社会	第4学年	ごみのしよりと利用
音楽	第5学年	こげよマイケル
図画工作	第2学年	ひかりのプレゼント ～どこにうつそうかな～
体育	第1学年	ボールけりゲーム
道徳	第5学年	ひととのつながり

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

- ・ 配属クラスの学級経営：指導を担当してくださっていた先生は、「ほめ言葉のシャワー」と呼んでおられたのだが、児童をよく褒めておられた。児童の良い所を具体的に見付け、評言しておられた。あまりできていない子には叱ることもあったが、むしろできている子を褒めて「自分もちゃんとしなければならない」と気づかせていることの方が多かった。黒板の端に児童の名前を書いた磁石が貼ってあり、自分で気づいて行動できている子の名前の横に正の字を書いていた。先生が正の字を書き始めると、子どもたちは自分も正の字を書いてもらいたいのので自然と静かにするなどの行動をとっていた。（配属：第1学年）
- ・ 真似したい実習校の先生方の指導法・工夫とその理由：児童たちにとって与えられた課題ではなく、「自ら学びたいと思えるような課題へのアプローチ」を今後真似していきたい。担当の先生を中心に、多くの先生方の授業を観察し、以下のことを考えた。分かる授業ができることはもちろん大切だが、好奇心を湧かせたり、学びたいという意欲を感じさせたりする授業も重要であるということである。好奇心や意欲こそが学びを深めたり、学習の継続に繋がったりするからである。今の私は授業を計画通りに進めることや、ねらいから外れないように最後まで終えることで精一杯だが、必ずこの力を身に付け、学びの面白さを児童たちに伝えたい。（配属：第5学年）

4 成果と課題

事前指導の課題としては、例年になく学生の履修登録の手続きミスが多かったことが挙げられる。今後、履修指導を徹底したいと考える。

実習校の事情にもよるが、実習授業の時間数は通常10時間程度のところ、2時間から17時間までの差があった。実習後、介護等体験も含めて3年次後期における授業欠席数が増えている点も課題の一つである。

今年度の新たな試みとしては、各教育実習共通の巡回指導記録を導入したことが挙げられる。巡回指導教員による巡回指導記録への記述から、学生の様子や実習校側の評価、成果と課題の一端を把握することができたので、今後も継続していきたい。

実習報告会実行委員の学生は、例年よりも準備が早く、アンケートを活用して学生全員の意見を反

映させた丁寧な運営を行っていた。この点については成果が認められた。実習報告書のレジュメに関しては、文字数にはあまり差がなかったが、振り返りの深さや内容面では個人差が認められた。実習報告会は3コマ実施したが、1・3回目のテーマ設定に課題があった。参加者相互が収穫を得られるようなより具体的なテーマを考える必要がある。例えば、実習生自身が実習授業・研究授業で行った教科指導について掘り下げ、交流する機会があればよかったのではないだろうか。学生の主体性を大切にしながら、よりよい方向へと今後も支援していきたい。